



さくら



校訓「ほんきで なかよく きまりよく」【学校創立151年・地域に支えられ、がんばる桑っ子】

学校教育目標 …「夢に向かい 感性を育む 桑っ子」

重点目標…「自ら感じ、考え、行動する子」

違いを認め合える温かな学校づくり

寒さが厳しくはなっていますが、12月もドリームコンサートや焼き芋大会、桑っ子マルシェなど、感性を育む様々な行事が行われました。運動場では、元気になわとびの練習をする子供が増えてきました。12月25日(水)より冬休みに入ります。冬休み前の集会では、クリスマスにちなんで、以下のような話をしました。抜粋して紹介します。

みなさん、クリスマスソングといえば、どんな曲が好きですか？先生は、「赤鼻のトナカイ」が好きです。赤い鼻のトナカイは、他のトナカイと違うので、いつもいじめられて泣いていました。しかし、サンタに、その赤い鼻こそが、暗い夜道を明るく照らしてくれるので役に立つと言われ、喜んだという歌です。



みなさんは、人と違うからといって悪口を言ったり、いじめたりしている人はいませんよね。人と違うから、いじめていいっていうことはありません。反対に、自分は人と違うから、ダメなんだみたいなことも思わなくていいです。きっとその違いには、意味があります。今は、役に立たなくても、きっといつか役に立つときがやってきます。だから自信をもってほしいと思います。校訓の「なかよく」は、お互いに認め合ってなかよくしましょうということです。昨日まで取り組んだ感謝の木にも多くの温かい言葉が贈られていました。みんなも、サンタのように友達の良さをみつけ、勇気づけることができたなら、それは友達への最高のクリスマスプレゼントです。サンタからもらうだけでなく、自分もサンタになって、みんなを幸せにできたらいいですね。金子みずぶさんは「みんな違って、みんないい」と言いました。先生は「みんな違うからこそ、みんないい」と思っています。

今はいじめも多様化していますが、根本的には、異質なものを排除しようとする心が働いているように思います。みんな一緒は、ある意味とても気持ちいいものですが、それが義務のようになると少しずつ違和感が生じ、そこから外れることが怖くなり、いじめが助長していくのだと思います。嫌なことを我慢しなくていいと思いますが、自分自身のとらえ方を変えるだけで、気持ちが前向きになることもあります。子供たちには、なかよくすることの意味を深く考えられるようになってほしいと思っています。世界では、絶え間なく紛争が続いています。多くの子供が貧困に苦しんでいる状況もあります。世界平和のために立ち上がるような大きなことはできなくても、身近な人との違いを認め、温かな心で接することのできる桑っ子であってほしいと願うと共に、そのための努力を教職員一同続けていかなければいけないと考えています。



学校は、今年度を振り返り、次年度の計画を練っていく時期に入ります。保護者の皆様にも学校評価にご協力頂きました。ありがとうございました。今後も、来年の学校の在り方についての検討は続きますので、どうか皆様からの建設的なご意見をお寄せください。子供だけでなく、家庭や地域にとっても魅力ある学校となりますようご理解ご協力をよろしくお願いします。